

志保田務先生を称えて

経営学部長 明石 吉三

志保田務先生は、2008年3月をもって桃山学院大学を定年退職されることになります。世の定めではありますが、誠に残念です。先生は、本学発展のために献身され、感謝の言葉もありません。これからの人生を楽しく過ごされることを心から祈っております。

先生は1963年関西大学法学部を卒業され、その後大学の図書館に勤務して実務を経験され、さらに図書館学を修められました。1978年4月本学社会学部に助教授として赴任されました。その後、1986年社会学部教授、1990年には文学部教授、2002年には経営学部に移られ経営学部教授として今日に至っております。

先生は本学に赴任後一貫して図書館学の研究に携わってこられました。分野が異なる私に的を得たご紹介はできませんが先生の研究業績を拝見いたしますと、その多さに驚かされます。著書30編、論文百数十編、その他、学会発表、辞典・ハンドブック執筆などいかに先生が精力的に研究活動されたかが如実に示されております。また、教育面では、多くの司書課程修了生を育てていただきました。実務の世界で多くの教え子の方々が活躍しております。さらに先生には教育・研究だけではなく、大学の運営、行政に多くの貢献を頂きました。主要な役職として、社会教育センター長(1991年)、計算機センター長(1998年から2年間)、総合研究所長(2004年から2年間)、国庫助成委員会委員長(2006年から1年3ヶ月)、国庫助成に関する私立大学教授会 関西中四国連絡協議会代表(2006年6月から1年間)他多くの重責を担われ、大学行政の面で多大な貢献を頂きました。

私は本学経験が浅いため、先生から直接ご指導を頂いた経験が乏しいのですが、先生の研究、教育、大学行政と、あらゆる事柄に、熱く、真摯に、ともすれば人が躊躇する事柄に、果敢に取り組まれるお姿を拝見いたしました。身をもって示す姿勢は、何にもますご指導であったと思います。

先生には、まだまだ、教育・研究にご指導、ご尽力を頂くことになっておりますが、一つの区切りとして、桃山学院大学発展に尽くされた30年に及ぶ長年の年月のご功績に報いるために、本学は「桃山学院大学名誉教授」の称号をお送りすることを決定しております。また、桃山学院大学環太平洋圏経営研究学会は「志保田務教授退任記念号」(2008年3月)を編み、発行する次第となりました。

志保田務先生におかれましては、桃山学院大学にとどまらず、図書館界での重要な役割を引

き続いて果たして行かれるとお聞きしております。これからも変わらぬご指導をいただきますようお願い申し上げます。今後とも健康にご留意いただき、一層のご活躍をお祈りいたします。